

第1回 環境・再エネ・レジリエンス展

気候変動・災害対策 Biz 2019

初開催

期間中取材のお願い

12月4日(水)～6日(金) 10:00～17:00
東京ビッグサイト 南1・2ホール 入場無料(登録制)<https://messe.nikkei.co.jp/cc/> ※ウェブサイトにて詳細情報をご覧ください。

日本経済新聞社と日経BPは、12月4日(水)～6日(金)の3日間、東京ビッグサイトで「気候変動・災害対策 Biz 2019 (第1回 環境・再エネ・レジリエンス展)」を初開催します。地球温暖化が原因とされる異常気象や災害に対応するサービス・製品や、気候変動を抑止する環境・再生エネルギー技術が一堂に集結するビジネス展示会で、国・地方公共団体や、企業の総務・環境・防災関連部門などの来場を想定しています。

昨年は、北海道胆振東部地震、大阪府北部地震、島根県西部地震、西日本豪雨、台風21号、24号の直撃、記録的猛暑といった様々な自然災害・異常気象が発生しました。公益財団法人 日本漢字能力検定協会が毎年発表している2018年の漢字には「災」が選ばれ、近年の自然災害の多さを改めて実感させるきっかけとなりました。

今年も、福島県や千葉県、山形県沖での地震や、台風15号(9月)・台風19号(10月)、世界各地の記録的猛暑といった異常気象が、私たちの生活を脅かしています。

本展は、「SDGs Week」の総称のもと「社会インフラテック2019」(第2回)及び「エコプロ2019」(第21回)と同時開催し、約16万人(SDGs Week開催3展の合計、3展会期を合わせた4日間)の来場を見込んでいます。気候変動の抑止や防災・減災の普及・啓発を通じ、持続可能な社会の構築・発展を目指します。

異常気象や災害への対策技術・サービス・製品

「気候変動・災害対策 Biz 2019」の見どころを紹介！

【TOPICS①】 防災・気象情報や、豪雨・洪水対策商品、避難支援サービスまで。注目の出展者、製品・サービスをピックアップ！

災害時の情報収集や、安全確保のための技術やサービスが多数展示。2017年の水防法改正により新たに作成が義務化された、要配慮者施設等の避難確保計画を簡単に作れる新しいサービス(日本気象協会)が登場予定です。また、防災時に活躍するコンパクトな担架「ターボリン救護担架」(カンボウプラス)や、NFCタグを搭載し、救護の際に必要な情報が提供できるカード「いざ!カード」(千代田テクニカルアーツ)、災害用トイレ「ほぼ紙トイレ」(カワハラ技研)など、災害や緊急時に対応する製品・サービスが登場します。

【TOPICS②】 気候変動・災害対策 Biz カンファレンスを開催！

当日会場では、展示会場内に設置した2カ所のステージで、有識者や先進企業によるカンファレンスを実施します。激甚化する気象災害への備えや、気候変動の抑止につながる環境・再生エネルギー関連の動向などについて最新の知見を紹介します。12月4日(水)には「日本社会が抱える社会・環境リスクと経済へのインパクト」と題し寺島 実郎氏(日本総合研究所会長、多摩大学学長)が、6日(金)には「パリ協定後のビジネスと最新動向」をテーマに高村 ゆかり氏(東京大学未来ビジョン研究センター教授)が登場します。

【本リリース、広報用素材、会期中の取材に関する問い合わせ先】

気候変動・災害対策 Biz 2019 広報事務局(共同ピーアール株式会社内)

TEL: 03-3571-5236 e-mail: ccb-pr@kyodo-pr.co.jp

【会期中の問い合わせ先】(12月3日(火)14:00以降～12月6日(金)17:00まで)

西1ホール主催者事務室(2) TEL: 03-5530-1193 TEL: 070-2651-3987

【TOPICS①】気候変動・災害対策 Biz 2019 注目の出展者、製品・サービスをピックアップ!

※以下は出展者のニュースリリース等から作成しています。報道の際には掲載内容を各社へご確認ください。

災害に関する情報を集めるシステム

■ JX 通信社 (小間番号 : CC-216)

AI が SNS から災害の現地情報(目撃情報)をリアルタイムに収集し、真偽のチェックを画像や動画解析で行い、配信する web サービス「FASTALERT」を出展します。このサービスによって、リスク情報をいち早くスクリーニングし、確度の高い緊急情報だけをリアルタイムで届けることが可能になります。これは、公的機関や不動産、メーカーなどで活用されています。会場では、実機デモを使ってリアルタイムに全国で起きている災害や事件、事故などのリスク情報をチェック、体験していただける予定です。



■ 建設技術研究所 (小間番号 : CC-222)

水災害リスクマッピングシステム「RisKma(りすくま)」を紹介します。近年頻発するゲリラ豪雨・集中豪雨による災害防止を目指し、リアルタイムの災害発生リスク情報を提供するサービスです。また、洪水被害の起こる危険性が高い地域を予測し、中小河川の浸水リスク等の地域に特化した情報にカスタマイズし、地域の「逃げ遅れゼロ」対策にも活用できます。会場では、浸水災害を VR で体験できます。リスクを正しく理解し、自助の向上、共助、減災につなげ、逃げ遅れゼロの社会を目指します。

気象情報に関するサービス・システム

■ 日本気象協会 (小間番号 : CC-224)

2019年10月にリリースした要配慮者利用施設(社会福祉施設、学校、医療施設など)向け避難支援サービスは、要配慮者利用施設管理者が避難確保計画を作成できるツールです。1時間~1時間半程度で国交省のガイドラインに従った避難確保計画を作成することができます。展示ブースでは、この要配慮者利用施設(社会福祉施設、学校、医療施設など)向け避難支援サービスが体験できます。

また、気候変動対策コンサルティング、再生可能エネルギー導入コンサルティング(日射量・需要予測・環境アセスメント)、線状降水帯等の予測・監視技術、防災啓発事業など日本気象協会の気候変動・災害対策技術を紹介します。

大雨や洪水に対応した製品・サービス

■ アサヒハケ (小間番号 : CC-208)

大量に降った雨水による雨裂浸食を防止するため、シートの凹凸により流水を減速させ任意に誘導排水することによって斜面を守る「RL マット」を紹介。RL マットは「雨水の誘導」「流速の抑制」「防草効果」「軽量化により施工が容易」「耐候性耐光性に優れた効果」の5つの特徴があります。



■ 日立パワーソリューションズ (小間番号 : CC-231)

河川の水害状況をシミュレーションできる防災情報支援ツール「DioVISTA/Flood」が出展します。降雨によってどのように河川が氾濫し、街が浸水するかを予測することで、避難計画や堤防補強計画の立案、水害イメージを住民に公開して住民の防災意識の向上が期待できるツールです。さらに、河川水位、浸水地域、浸水深の分布を24時間予測し続け、予測を10分に1回自動で更新することができます。危険な状態が予測される場合にはアラートを発令し、危険地域を地図に重ねて表示します。その他、竜巻やゲリラ豪雨の原因となる積乱雲などの監視業務を支援する雨雲可視化ソフトウェア「DioVISTA/Storm」を出展します。雨雲の微細な構造をほぼリアルタイムに観測できるようにした、新型の降雨レーダーの観測結果をオンライン地図と重ねて3次元表示できるソフトウェアです。

緊急時の救護・救助をサポート

■ カンボウプラス (小間番号 : CC-206)

エア遊具やオリジナルキャラクター等のエアオブジェも手掛ける会社が防災時に対応する様々な製品を出展予定。熱中症や災害時などの緊急時に、要救護者を介助するための担架「ターボリン救護担架」を出展します。使用しない時は、壁やAEDに掛けた状態でコンパクト(33cm×40cm×9cm)にまとめ、小さなスペースで保管ができます。使用するには誰でも簡単に広げることが可能です。また、防水布を使用しているので、血液や汚れがついても拭き取ることができます。安心・高品質な国内製造です。その他にも、土嚢袋に代わって建屋内へ水侵入を防ぎ、繰り返し使用可能なパネル型止水シート「パネテクター」や、専用送風機で空気を入れるだけで設営が可能なエアテントも出展予定です。



■千代田テクニカルーツ（小間番号：CC-207）

緊急時、救助者に自分の病歴等、救護に必要な情報を提供できる NFC タグを搭載した**情報提供カード「いざ!カード」**を出展。緊急時、万が一意識がない場合でも、スマホひとつで救護者に負傷者の情報を提供することが可能です。その他、同様の技術を使いピクトグラムをより認知しやすい情報提供ツールに開発した「Dピクト」も出展予定です。会場には、「いざ!カード」の現物が登場し、体験していただけます。



■トヨクモ（小間番号：CC-233）

災害時、**社員の安否確認を携帯電話やパソコンで行うクラウドサービス「安否確認サービス 2」**を出展します。災害発生時の被害状況を正確に把握し、社員への指示を迅速に行うための機能を備えています。また、社内ネットワークの障害時の緊急連絡用としても活用できるサービスで、社内ネットワークの障害時の緊急連絡用としても活用できます。企業として、災害時の混乱を最小限に留め、顧客サービスを継続的に提供するために活用することができます。

■帝人エンジニアリング（小間番号：CC-204）

防災用空気呼吸器・医療用酸素用途など、幅広い分野で使用されている、**空気呼吸器用 FRP 複合容器の「ウルトレッサ」**を出展します。アルミライナー(内筒)にカーボン繊維・ガラス繊維を多層に巻付構造の軽量圧力容器で、軽量性・耐腐食性・安全性に優れています。



非常時に活躍する照明、充電機器

■FKK（小間番号：CC-236）

電力レスでも発光する「**蓄光機能搭載 LED フレキシブルライト**」を展示します。通常時は間接照明・意匠照明の特長を活かし、空間を演出しつつ自らの光で蓄光。災害発生時に電力が遮断された際には、製品本体が発光(燐光)し、電力レスでも避難初期の誘導補助照明の役割を担う防災・減災 LED 照明です。



■ハタヤリミテッド（小間番号：CC-210）

100V コンセント付コードリールに携帯電話やスマートフォンなどのモバイル端末の充電ができる **USB ポートを搭載した「USB ポート付コードリール」**を紹介しします。また、地震・水害・土砂災害・火災などによる**夜間の避難誘導・防災活動・普及作業に活躍する「防災用スタンドライトセット(150W ポールライトセット)」**、360度から直下まで照射方向を自在に調整できる **フォールディングライト**を紹介しします。



その他

■カワハラ技研（小間番号：CC-205）

本年度東京都トライアル発注認定制度認定商品に選出された**組立式構造の災害用トイレ「ほぼ紙トイレ」**を展示します。軽量かつ組み立て・分解を容易に行うことができ、しかも、大量の汚物収納容量を確保し焼却処分が可能です。プライバシーの確保、防犯、二次感染対策も考慮されており、屋外への設置も可能です。会期中は『ほぼ紙トイレ』の実物を展示します。また、猛暑や携帯型冷却装置『ゼロヒート』も紹介予定です。



■JFE アクアサービス機器（小間番号：CC-201）

小型軽量・簡単操作をコンセプトとし、安全安心な水をつくる**小型浄水機「ライ ラックⅢ」**を展示します。災害時、必要な水は飲み水だけではなく、洗濯やトイレなどに使う生活用水も必要です。「ライ ラックⅢ」は、小型で軽量、本当に必要な機能だけを搭載し、より使いやすくした浄水機です。

「気候変動・災害対策 Biz 2019 (第1回 環境・再エネ・レジリエンス展)」の見どころ

【TOPICS②】気候変動・災害対策 Biz カンファレンスを開催!

※受講は事前申込制の先着順。座席に余裕のある場合には、当日受付も行います。

■A 会場の主なプログラム (定員・A会場:200人)

12月4日(水)

11:00-11:40「日本社会が抱える社会・環境リスクと経済へのインパクト」

◆日本総合研究所会長 多摩大学学長 寺島 実郎 氏

12:00-12:40「気候変動と気象災害の激甚化それに向けた対策」

◆日本気象協会 執行役員 CTO/CIO 政策研究大学院大学 防災・危機管理コース 講師 鈴木 靖 氏

◆京都大学理事補・防災研究所水資源環境研究センター長・教授、博士(工学) 角 哲也 氏

14:00-14:40「気候変動がもたらす東京都心部の水没危険性」

◆関西大学社会安全研究センター長・特別任命教授、人と防災未来センター所長 河田 恵昭 氏



寺島 実郎 氏

12月5日(木)

12:00-12:40「都市開発におけるサステナビリティの追求 ～森ビルにおける事例紹介～」

◆森ビル 取締役副社長執行役員 森 浩生 氏

14:00-14:40「『再生可能エネルギー×マイニング』による新たな可能性」

◆センチュリー・エナジー 常務取締役 開発事業本部長 根本 淳 氏

◆センチュリー・エナジー 開発事業本部 第3事業部長 長澤 愛彦 氏



高村 ゆかり 氏

12月6日(金)

11:00-11:40「パリ協定後のビジネスと最新動向」

◆東京大学 教授 高村 ゆかり 氏

14:00-14:40「パリ協定が変えるビジネスの在り方」

◆WWF ジャパン 会長 末吉 竹二郎 氏



末吉 竹二郎 氏

■B 会場の主なプログラム (定員・B会場:100人)

12月4日(水)

11:00-11:40「南海トラフ巨大地震といかに向き合うか」

◆高知県黒潮町 町長 大西 勝也 氏

14:00-14:40「水道事業の持続を支えるこれからの公公民連携のあり方～民間企業の技術を生かして大都市が中小都市を支える～」

◆メタウォーター 代表取締役社長 中村 靖 氏



中村 靖 氏

12月5日(木)

13:00-13:40「気候変動に伴い高度化を求められる防災・BCP～対応戦略の再点検と避難行動・避難所のあり方～」

◆WOTA 最高執行責任者 COO 前田 瑤介 氏

◆WOTA 総合企画室長 森 健 氏

15:00-16:40「NEDOの水循環技術、窒素循環、3R対策技術、フロン対策技術に係る取組について」

◆新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)

12月6日(金)

11:00-11:40「RE100達成に向けた『屋根貸し』や『SPC投資』で環境貢献を」

◆第二電力 副会長 寺井 宏隆 氏

14:00-15:40「NEDOのCCUSに係る取組について」

◆新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)

SDGs Week 同時開催展・シンポジウムのご案内

◎ **ナノセルロースや海洋プラスチックなど、エコの最先端技術・サービスが集合！**

■ 「エコプロ 2019 [第 21 回]」

会期：12月5日（木）～7日（土） 10：00～17：00 会場：東京ビッグサイト 西1～4ホール

主催：一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

公式サイト：<https://eco-pro.com>

1999年に初開催し、地球環境課題の解決に向けて数多くの取り組みを紹介してきたエコプロは、今年で開催21回目を迎えます。今回も環境問題への対応を中心にさまざまな企画を展開していきます。入場無料（登録制）。

【本展の主催者企画コーナーについて】

第4回 ナノセルロース展（西2ホール）

- 場所：東京ビッグサイト 西2ホール
- 主催：日本経済新聞社
- 共催：産業技術総合研究所ナノセルロースフォーラム

再生可能な新素材として注目されているナノセルロースについて、研究開発から事業化まで、製造技術から用途開発までの最新情報をわかりやすく紹介します。ナノセルロースに実際に触れていただけるブースや、建築材料から音響機器、日用品、化粧品、食品に至るまで、ナノセルロースを使った商品の実物を見ることができます。

海洋プラスチックごみ対策コーナー

●協力：クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）、プラスチック・スマート
国際的に大きな関心を集めている海洋プラスチックごみ問題。このコーナーでは、そんな海洋プラスチックについて、リサイクルしやすいプラスチック製品の開発・製造・利用の推進、より環境負荷の低い素材・製品への代替などに向けた先進企業の取り組みをご紹介します。また、プラスチックの3Rやごみ拾い活動に積極的な企業・団体も紹介します。

◎ **インフラ維持管理に関する展示会&カンファレンス**

■ 「社会インフラテック 2019」(第2回)

会期：12月4日（水）～6日（金） 会場：東京ビッグサイト 南1・2ホール

主催：インフラメンテナンス国民会議、日本経済新聞社

公式サイト：<https://messe.nikkei.co.jp/in/>

インフラ維持管理者と民間企業・技術とのマッチングを目的に、インフラ老朽化対策の技術・工法・材料をはじめ、センシングやIoT、ビッグデータ、移動体（ドローン、ロボット）などの先端技術を活用したインテリジェント・インフラが集結するイベントです。入場無料（登録制）。



【本展の主催者企画コーナーについて】

「将来の高速道路マネジメント～i-MOVEMENT プロジェクト～」【協力】中日本高速道路

社会環境の変化を踏まえて次世代技術を活用した、概ね10年先を見据えた高速道路管理の改革プロジェクト（*i-MOVEMENT）の取り組みを紹介します。

<紹介例> 「構造物点検調査ヘリシステム」「パイプカルバート点検ロボット」「ICTを活用したインフラ監視・点検用車両」など

*i-MOVEMENTとは最先端のICT技術・ロボティクスの導入により、人口減少などの高速道路を取り巻く環境の激変に対応しつつ、高速道路モビリティの進化を目指すNEXCO中日本の活動（ムーブメント）を表します。

開催概要

- ◆名称： 気候変動・災害対策 Biz 2019（第1回環境・再エネ・レジリエンス展）
- ◆会期： 2019年12月4日（水）～6日（金）10：00～17：00
- ◆会場： 東京ビッグサイト（東京国際展示場）南1、2ホール（東京都江東区有明3-11-1）
- ◆入場料： 無料（登録制）※ホームページ（<https://messe.nikkei.co.jp/cc/>）で一般の事前来場登録を受付
- ◆主催： 日本経済新聞社、日経BP
- ◆後援： 国土強靱化推進本部、経済産業省、国土交通省、環境省、気象庁、気象ビジネス推進コンソーシアム（順不同）
- ◆来場対象： 国・自治体関連（中央省庁、地方自治体、公共団体、大学・学校、研究機関など）、
企業の総務関連（総務、管財、環境、防災、危機管理などを担当する部門の意思決定層・担当者）、
建設・サービス（建設、土木、測量、設計、不動産、住宅、デベロッパ、電力、ガス、新電力、
運輸、倉庫、鉄道、航空、船舶、観光業、イベント事業者、商社、コンサルティング など）、
IT・製造（地理・気象情報関連、システム開発、通信キャリア、電機製造、輸送機製造 など）、
農林水産・金融など（農業法人、農協・漁協、銀行、証券、政府系金融、リース、損害保険、
生命保険、投資法人、資産運用企業・団体など）（ほか）
- ◆来場者数： 30,000人（見込み、同時開催「社会インフラテック2019」との合計）
- ◆展示規模： 50社・団体、約110小間（11月21日時点）
- ◆来場者からのお問い合わせ先：フリーダイヤル 0120-261-122（9：00～18：00 土日祝を除く）

👉**企画の詳細や最新情報のチェックは公式ウェブサイト**で→ <https://messe.nikkei.co.jp/cc/>
公式ウェブサイトで、出展製品・サービスの情報や各出展者のプレゼンテーション予定などを検索することができます。来場前にチェックいただければ、「気候変動・災害対策 Biz 2019」をより詳細に、よりわかりやすくご理解いただけます（出展者により随時、情報が更新されます）。

👉会期中（12月4日～6日）プレス取材について

西1ホール主催者事務局（2）内のプレス受付にてプレスバッジ・報道資料をお渡し致します。
当日はプレス登録後、本展示会をご取材願います。

■本リリース、広報用素材、取材に関するお問い合わせ先

気候変動・災害対策 Biz 2019 広報事務局（共同ピーアール株式会社内）
TEL：03-3571-5236 e-mail：ccb-pr@kyodo-pr.co.jp

【会期中の問い合わせ先】（12月3日（火）14:00以降～12月6日（金）17:00まで）
西1ホール主催者事務局（2）TEL：03-5530-1193 TEL：070-2651-3987